二〇一八年四月一三日

青麦をみて我が背筋正しけり　明日香

里の道雀がくれとなりにけり　三刀

踏青や松をくぐりて湖に出づ　隆松

落椿古城へ辿る隠れ道　なつき

二〇一八年四月一二日

遠足の靴堂前に整列す　やよい

糸柳肩に触れもす川下り　宏虎

山吹の黄のさす水面禊ぎ川　菜々

渡月橋わたる総身に春の風　菜々

蒼天へ幼のおねしよ布団干す　なつき

二〇一八年四月一一日

点描のごとき芽吹きに浮見堂　満天

水脈に水脈重ね行き交ふ花見船　菜々

二〇一八年四月一〇日

鶯の声に覚めたる朝寝かな　愛正

二〇一八年四月九日

春の鴨相寄る二羽に池広し　たか子

二〇一八年四月八日

廃線路呆け土筆のひと屯　なつき

家敷門潜りくぐりて初つばめ　智恵子

二〇一八年四月七日

鳩翔ちぬ散り敷く落花舞ひ上げて　菜々

点描のモネの絵に似し山桜　もとこ

我が歩み追ひ越してゆく花筏　治男

毎日句会みのる選・二〇一八年四月一五日